

1. 教員および授業の概要

①教員名：井上 治 (Inoue Osamu)

②担当科目

- ・ 博士前期課程：モンゴル語特別演習 I・II、
北東アジア専門講義 5（北東アジア民族関係）、北東アジア研究指導 I～IV。
- ・ 博士後期課程：北東アジア超域研究指導 I・II、特別研究活動。

③教員のプロフィール

- ・ 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程史学（東洋史）専攻 満期退学
- ・ 博士（文学）（早稲田大学）
- ・ 専門：モンゴル史、北東アジア文化史、北東アジア民族関係史、北東アジア超域研究

④所属学協会

日本歴史学協会、国際モンゴル学連合、日本モンゴル学会、内陸アジア史学会など

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・ 16 世紀のモンゴルを中心とした地域関係史
- ・ 16 世紀から 19 世紀までのモンゴル語で書かれた歴史書の文献学的分析
- ・ 13 世紀から 18 世紀までのモンゴル語出土文献の解読
- ・ モンゴル人の歴史的生態資源活用文化とその変容
- ・ 朝鮮王朝で作られた北東アジア諸言語の教科書に関する研究
- ・ モンゴルの民間に保存されているモンゴル語古籍の研究
- ・ モンゴルの古絵図の研究
- ・ 仏教徒モンゴル人とムスリム・カザフ人との共生関係
- ・ モンゴル語訳チベット語史書の研究
- ・ アフガニスタンのモゴール語の研究

⑥研究指導方針

院生の研究テーマや分析手法に関する希望を聞いた上で、ミクロ・マクロを問わず現代北東アジア地域に広く存在する何らかの域を超えて生起する超域的問題を歴史的にとらえ、社会構造・文化・生活方法の変遷過程を把握した上で、さらにそれを現代の社会問題に結びつけるよう指導する。北東アジア諸言語で書かれた文献資料や原典史料の厳密な解釈とフィールドワークの実施を重視する。

⑦指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

- ・ 中国内モンゴルにおける族際婚姻による民族意識の再構成に関する研究
- ・ 北東アジアのタタール人ディアスポラ社会の構成と変遷に関する研究
- ・ 中国東北地方における生活環境の変化による伝統文化の存在意義に関する研究
- ・ 中国東北地方の少数民族のアイデンティティに関する研究
- ・ ポスト社会主義時代のモンゴルにおける家族の変容に関する研究
- ・ ウイグル民族文化の観光への活用に関する研究

2. 研究業績リスト

①主要な著書

- (1) (共訳注) 『アルタン=ハーン伝訳注』(風間書房、1998)
- (2) (共編) *Catalogue of the Mongolian Manuscripts and Xylographs in the St.Petersburg State University Library*. (Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa、1999)
- (3) (共編) *Index to the Catalogue of the Mongolian Manuscripts and Xylographs in the St.Petersburg State University Library*. (Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies、2000)
- (4) (共編) *Catalogue of the Mongolian Manuscripts and Xylographs in the St.Petersburg State University Library* (索引合訂本) . (Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies、2001)
- (5) 『ホトクタイ=セチェン=ホンタイジの研究』 (風間書房、2002)
- (6) (共編) *"Explanation of the Knowable" by 'Phags-pa bla-ma Blo-gros rgyal-mtshan(1235-1280)*. (Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa、2006)
- (7) (共編) 『ハラホト出土モンゴル文書の研究』(雄山閣、2008)
- (8) (共編) *Sinjiang-un ili-yin qasay ündüsüten-ü öbertegen jasaqu jéü-yin ögeled mongyulčud-un qadayalaju bayiy_a mongyul qayučin nom bičig-ün yarčay*. Beijing Dixin Yinshua, 2009.

②主要な論文

- (1) 「『ツァガーン・トゥーフ』の写本評価について」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』別冊18(1991):71-83.
- (2) 「『チャガン・テウケ』の2つの系統」『東洋学報』73/3・4(1992):366-343.
- (3) 「ホタクタイ=セチェン=ホンタイジの活動と政治的立場」『史滴』15(1994):31-46.
- (4) 「『少保鑑川王公督府奏議』に見えるアルタンと仏教」『東洋学報』80(1998):01-

025.

- (5) 「アルタンとソナムギャンツォのチャブチャール会見とその意義」 『アジア・アメリカ言語文化研究』 59(2000):89-138.
- (6) 「日本のモンゴル語戦時プロパガンダ誌とその周辺」 『アジア遊学』 54(2003):99-108.
- (7) 「ホトクタイ=セチェン=ホンタイジ伝gegen toliの基礎的研究」 『蒙古史研究』 7(2004):257-291.
- (8) (共編) 「オブス=アイマグ出土モンゴル語白樺樹皮折本の研究」 『早稲田大学モンゴル研究所紀要』 1(2004):14-49.
- (9) 「『チャガン=テウケ』 “古本系” 写本の問題について—ガンダン本と内モンゴル社会科学院蔵本の比較研究—」 *QUAESTIONES MONGOLORUM DISPUTATAE* 2(2006):269-292.
- (10) 「19～20世紀前半のオルドスにおける外来文化要素の受容過程に関する一考察」 『北東アジア研究』 別冊1(2008):227-277.
- (11) 「モンゴルにおける史書の受容と継承について—『白い歴史』と『蒙古源流』を事例に」 (早稲田大学モンゴル研究所 編『モンゴル史研究—現状と展望』 明石書店、2011 : 237-255.)